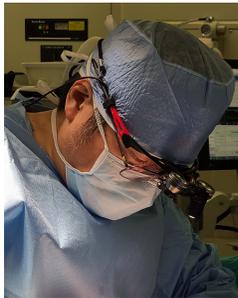


# 診療科長に聴く 消化器外科編



スズキ シュウジ

鈴木修司

消化器外科 主任教授

主な学会役員：

日本外科学会 代議員 / 日本胆道学会 理事、評議員 / 日本膵臓学会 評議員

日本腹部救急医学会 理事、評議員 / 日本外科系連合学会 理事、評議員

本日は、消化器外科の診療科長である鈴木修司主任教授にお話を伺います。

Q：鈴木修司先生の専門についてお聞きします？

A：専門分野は、消化器外科一般です。私は、筑波大学を卒業後、全国有数の症例数を誇る東京女子医大病院で研鑽を積み、これまで4500例以上の手術を手掛けました、どの消化器手術も一味違う手術を目指していますが、代表的なものとしては、食道癌、胃癌、大腸癌、肝胆膵癌です。また、腹部救急疾患も得意とする分野で、緊急手術にも積極的に取り組んでいます。

Q：鈴木先生は、特に難易度の高い手術を専門とされていると聞きますが、先生が力を入れている手術はどのようなものでしょうか？

A：食道癌や胆道癌、膵癌などの**高難度手術**を多く手掛けてきました。特に胆道癌、膵癌の手術に関しては、力を入れており、合併症を軽減させる工夫をしている他、術前・術後化学療法も含めた集学的治療を行ってより良い治療成績を目指すように行っております。これらの実績により、その専門性が評価され、日本膵臓学会では茨城県で唯一の評議員となっており、日本胆道学会では理事を拝命しております。また、腹部救急疾患についても非閉塞性腸間膜症の研究班長を務め、現在では日本腹部救急医学会の理事を拝命しております。

## 高難度手術

合併症を起こさないため、手術に高い技量が必要とされる手術のことです。食道癌では腫瘍を取り除いたあと、頸部の食道と胃を管状にした胃管を作って持ち上げて縫合しますが、縫い合わせた部分から食事の漏れが生じないように細心の注意が必要となります。胆管癌では、腫瘍を取り除いたあと胆管と小腸を縫合しますが、腫瘍を完全に除去しなくても、縫い合わせた部分から胆汁が漏れないように縫合するにも高い技量が必要とされるとされます。また、膵頭部癌では、膵頭部にある腫瘍と一緒に近接する十二指腸も切除する膵頭十二指腸切除術が行われますが、この手術は消化器外科領域でも最高難度の手術と言われており、膵液が漏れないように綺麗に縫い合わせるには十分な経験と技量が必要とされます。

Q：鈴木先生の消化器外科グループの構成員はどうなっていますか？

A：消化器外科は現在、9名の医師で構成され、肝胆膵外科を専門とする下田 貢教授、大腸外科が専門の島崎二郎准教授、肝胆膵外科や腹部救急疾患が専門の宮本良一講師、など多士済々というところです。

Q：2021年度の消化器外科での手術の症例数はどのくらいでしょうか？

A：一口に消化器と言っても多岐に亘ります。食道癌4例、胃癌37例、大腸癌58例、直腸癌29例、肝がん23例、胆道癌10例、膵臓手術33例、胆石症等の良性胆道疾患78例、ヘルニア49例、急性虫垂炎13例、緊急手術等の合計413症例になります。

それぞれの各疾患において、積極的に侵襲が軽い腹腔鏡手術を導入しています。

Q：大学病院の消化器外科として、行っている研究活動にはどのようなものがありますか？

A：文部科学省の科学研究費に採択されて行っている研究としては、膵切除と脂肪肝との関係における指標を検出する研究があります。私が主任研究者として行っているものでは、日本膵臓学会プロジェクト研究として、残膵癌の遺伝子解析研究があり、医局員の研究には、手術ナビゲーションや膵癌増殖因子の解析の研究などがあり、多数の研究を行っております。



Q：患者さんを診る上で診療のポリシーとしているものは、何でしょうか？

A：“当教室の理念である、診断から治療、そして終末期までの医療を担当するとの考えから、消化器疾患の診断（放射線学的、内視鏡学的、病理学的）、そして消化管の機能診断、治療法としては、外科療法はもちろん、保存的治療法、内視鏡的治療法、悪性疾患に対する集学的治療、地域のニーズに沿った外科治療などに力を入れている。”です。

Q：受診する患者さまに一言お願いします。

A：先進的な治療や地域ニーズに即した治療を積極的に行っており、安心して病気に立ち向かうことができるようにしています。

聴き手

スガハラ シンジ

菅原信二

放射線科 教授

・放射線学会

・放射線治療専門医

・放射線腫瘍学会 認定医

・当院広報委員長

東京医科大学茨城医療センター

〒300-0395 茨城県稲敷郡阿見町中央 3-20-1 / TEL 029-887-1161

各診療科外来担当医につきましては、当院ホームページをご確認ください。

<https://ksm.tokyo-med.ac.jp/>

紹介患者・医療連携については、総合相談支援センター 医療連携まで

